

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	I.T.	学部・学科	国際商学部国際商学科
学年	2年	派遣国	アメリカ
派遣大学	ローワン大学		
プログラム名	第二クォータープログラム		
期間	2024年 6月20日～2024年 8月1日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

Writing, Speaking, Reading の3つの分野に分かれており、横浜市立大学のPEの授業と非常に似た形式だった。配布された教科書のメーカーもPEと同じだった。

Writingの授業では、エッセイを書くことを通して英文法や表現について学んだ。スマートフォンを用いてゲーム形式で文法や文章構造のクイズ大会が開かれることもあり、楽しく学ぶことができた。また、後半の授業では様々な出身国の学生たちが教壇に立ち、それぞれの母国語についての授業を行うなど非常に自由で充実した授業内容だった。

Speakingの授業では、プレゼンテーションを行うことを通してスピーチの作り方や構造について学んだ。他の授業と比べてグループワークが多く、日本人以外の生徒と交流する場面が1番多い授業だった。全体で2回の個人プレゼンテーションの機会があった他にも、グループに分けられ小規模な劇を英語でする、など1番実用的に英語を学ぶことができた授業だった。他の2つの授業では日本人が他の国の学生よりも良い点数を取ることが多かった(文法クイズやreadingのテストなど)が、英語を話すという点では、パナマをはじめとした国の生徒に圧倒されることが多かった。

Readingの授業では、教科書に書かれている英文や2週間に1回ほどのペースで行われるテストを通して文章表現や単語について学んだ。他の授業に比べてテストが科される頻度が高く、放課後に勉強する必要があった。文章のレベルはそれほど高くないことがほとんどだったが、読み応えがあるものが多く多少は力になったと思う。

全体を通して、PEとほぼ同じ内容の授業だったと感じた。授業の中で学ぶこともあったが、実用的な英語を学ぶためには外国人と授業外でも積極的に英語でやり取りをすることが重要だと感じた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

前述したとおり、授業の形態は横浜市立大学の PE の授業に非常によく似ていたので、英語が話せるようになるというよりは文法力や構構力などを重点的に身につけることができたと思う。しかし、PE の授業と異なり周りが外国人だったため、相談など些細な会話も必然的に英語をする必要があり、それが英語力の向上に非常に繋がったと感じる。

授業の雰囲気としては、どの生徒も教授が話しているときに積極的に会話に入り、授業に参加しようとしている点が日本と 1 番異なる点だった。日本では教授が話しているときだけでなく話し合いの時間になっても静かなままということが珍しくないが、授業中はとにかく話して自分の意見を伝えることを第 1 と考える人の割合が多く、非常に刺激になった。

単語力や文法力については、日本の学生が他の国の生徒よりも高い点数を取ることが多く、各国の英語教育が重視していることの違いを感じるが多かった。英語を“話す”と言う点においては、海外の学生に圧倒されることが多く、非常に苦労した。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

学生の授業に対する向き合い方に大きな衝撃を感じた。日本では、多くの学生は受動的で教授の話聞くだけのことが多いが、海外では挙手が求められていないタイミングでも挙手をして自分の意見を伝える生徒が多く、授業に参加するというよりも授業を作るというような姿勢で授業に臨む学生が多かった印象を持った。

留学初期は、授業を受けたことで自分自身が周りの外国人の学生に比べて英語を流暢に話すことができないことを痛感し、緊張しながら授業を受けることが多かったが、時間が経つにつれて英語でコミュニケーションを取る楽しさを感じることができ、積極的に英語を話すことができたと思う。また、文法力などは海外の生徒と比べても日本人は得意としていたので、クイズやテストで良い点数を取ることができ、それをきっかけに周りに学生とコミュニケーションを取ることができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

英語は継続して触れ続けることが非常に大切だと感じたので、留学が終わった後も積極的に英語に触れる機会を増やしていきたい。また、英語だけでなく授業に対する積極的な姿勢についても非常に刺激を受けたことを無駄にしないよう、2 年後期から始まるゼミ活動など話し合いが重要になってくる活動に積極的に参加し、授業を受けるだけでなく自分たちで作っていくような姿勢を大切にしたい。また、英語に触れる機会が長く、授業の中でも専門的な単語や表現について学んだので、知識が抜ける前に TOEIC などに挑戦していきたい。